

TABLE FOR TWO

かわら版 Vol.9 2011年7月発行



これまでに集まったご寄付(2011年6月24日現在)

924万4,585食

約4万2,000人の子どもの1年分の学校給食になります。

ティグライ州コロロ、デグム小学校

気 候変動の影響を受けやすいティグライ州 学校給食は生徒の食の安全保障に

エチオピアでは近年、気候変動からもたらされる影響により、人々の生活は厳しい状況へ追い込まれています。国内全就業人口のうち、およそ80%の人々が農業に従事しています。そして彼らの多くが、1ヘクタール程の土地のみを所有する小規模農家です。このような、通常時でも限界に近い収入で生活している農民たちにとって、わずかな環境の変化がもたらす影響は甚大です。近年の状況を見ると、2008年に雨季(6~9月頃)に全く雨がふらないという事態が起こりました。エチオピア国内の多くの地域が灌漑設備の整備が不十分なため、雨水のみに頼る天水農法を行っています。雨季に合わせて農業を集中的に行い、収穫物を糧に翌年の雨季までの食料や現金を確保しています。2008年の干ばつ時には、エチオピア国内のある地域では全く作物を収穫できない状況に陥り、多くの家庭が食べ物も現金収入の機会も持てないという事態となりました。そんな環境変動にとても影響を受けやすいエチオピアでは、学校給食が子どもたちの食の安全保障となる、とても貴重な役割を担っています。



とうもろこしと大豆

TABLE FOR TWOが学校給食を支援している、エチオピア・ティグライ州コロロでは、とうもろこしと大豆をブレンドしたもの(Corn Soya Blend; CSB)が学校給食として提供されています。家庭で栄養バランスの欠けた食事を取らざるを得ない状況にいる子どもたちが多いこの地域では、カロリー摂取量や栄養素に配慮したこのCSBが子どもたちの健康を支える重要な役割を果たしています。

TABLE FOR TWO 事務局代表より

支援先のエチオピア・ティグライ州では、ここ数年深刻な干ばつが続いています。その影響で農業の生産性が著しく低下、穀物や野菜の収穫量が激減したため、子ども達が満足に食事を取れない状況が続いていました。そんな中、TFTと現地団体の支援により今年から学校給食を開始することができました。まだ、満足な食事内容ではありませんが、給食により子どもたちが学校に戻りはじめています。



(代表・小暮真久)

エチオピア 連邦民主共和国

- 首都:アディス・アババ
 - 民族:オロモ族、アムハラ族など約80の民族
 - 言語:アムハラ語、英語
- およそ3,000年以上の歴史を持つ、アフリカで最も古い独立国。首都には、AU(African Union)をはじめ、多くの国際機関や地域機関が立ち並び。



「オレンジ 食べていかないか？」

子どもたちの家庭の多くは、小規模農家です。雨が特に少ないティグライ州では、灌漑設備の整備が農業生産性の飛躍的な向上に貢献しています。この写真のガブラキダさんは、牧草地に独力で1年をかけ井戸を掘り、果樹園を始めました。雨水に頼らずに水を確保できるようになった現在栽培品種も増え、余剰作物を市場で売ることを通して、現金収入の機会も大幅に拡大しました。



TABLE FOR TWO

www.tablefor2.org

- What is TABLE FOR TWO? -
社員食堂やレストランでヘルシーメニューを食べると、その代金のうち20円が寄付され、アフリカ(エチオピア、ウガンダ、ルワンダ、マラウイ)の学校給食1食分になるという社会貢献事業。